

26PB-am180

検査値の記載された処方せんに関する薬剤師の意識調査

○永田 隆之^{1,2}, 飯塚 康人^{1,6}, 赤津 雅美^{1,5}, 溝井 武尊^{1,4}, 藤田 雄一^{1,3}, 鈴木 隆広^{1,8}, 村井 華代^{1,7}, 吉川 真一^{1,2}, 渡邊 義久^{1,6} (1いわき市薬学連携協議会, 2いわき明星大薬, 3植田薬局, 4アイランド薬局, 5アイル薬局, 6福島労災病院薬, 7新田目病院薬, 8かしま病院薬)

【目的】いわき市薬学連携協議会は病院や保険薬局、教育機関などで活動する薬剤師間の情報交換・共有することで医薬品適正使用の推進と患者の QOL の改善に貢献することを目的としている。今回我々は検査値の記載された処方せんを通して各医療機関に勤務する薬剤師が必要としている患者情報などのニーズを把握するためにアンケート調査を実施した。

【方法】臨床検査値に関する研修会を開催した際、参加した薬剤師に対しアンケートを実施した。アンケートの内容は保険薬局薬剤師に向けては、処方せんの内容以外で把握したい患者情報の有無、検査値が記載された処方せんについてどう思うか、業務にどのような影響を与えているかなど 10 項目を設定した。一方病院薬剤師に向けては、薬局が有する患者情報で把握したい情報や、検査値が記載された院外処方せんについての考えなど 7 項目を設定した。

【結果・考察】保険薬剤師が処方せん以外の患者情報で把握したいと思っているものとしては、病名、検査値、退院時の処方内容などが多く挙げられていた。また、回答した保険薬局薬剤師の約 9 割が検査値の記載された処方せんを受け付けたことがあり、検査値が記載されていることで副作用を含めた薬物治療の安全性を確認でき、主に服薬指導において有効だったと回答していた。一方病院薬剤師は他科受診、併用薬などの薬局が有する情報を把握したいと考えており、また、検査値が記載された処方せんについては薬物治療の有効性や安全性が確認できる利点があると考えていた。本協議回では今後も調査を継続し検査値の記載された処方せんの有効性や保険薬局薬剤師と病院薬剤師のニーズの把握に努めていく予定である。